



甲南学園

甲南大学 甲南高等学校 甲南中学校

甲南学園 KONAN
GAKUEN

100年のあゆみ

甲南教育

さらなる100年に向けて

～百世不磨の平生精神を研く～

創立100周年を迎える甲南学園は、この間、常に変わらず、創立者平生 夙三郎の建学の精神を実現すべく努めてきている。創立50周年に際し、当時の理事長伊藤忠兵衛は「ヨキコト ハ サカエル」と題し、平生精神について「ヨキカラダ ヨキ考エ 少シデモ 世ノ中ニ ツクシウル 人間ニ ソダッテ モライタイシ、制度上 デハ 画一的ナ 教育ヲ サケ、個々ノ 人間ノ 才能ヲ ノバシウル 教育ヲ ツツケタイ」と記し、「甲南建学精神ハ 50年ヲ ヘタ 今日、キタルベキ 新世紀ヘ ナガク ツヨク モチツツケタイ モノナノデアル」と締め括っている。

さて、近年、我々を取り巻く社会情勢はますます複雑混沌の様相を呈している。そこでは世界の多極化、自国優先主義の台頭、経済活動のグローバル化、超高齢化や少子化の進展、他方で人口爆発、さらには地球環境の変貌、デジタル化文明の急激な浸透など、いわゆる予定調和的思考の枠では捉えきれない社会的課題が山積し、予測不可能な時代となっている。こうした時代のなかで、甲南学園がさらに輝かしい歴史を築き上げるためには、伝統のうえにたゆまぬ革新を研ぎすましていかなければならない。そして、これら革新をより実効あらしめるには、いま一度、平生の建学精神を、時代変化の表層に右顧左眄するのではなく、社会からの負託にも真摯に応えられるかたちに咀嚼しそれを社会に提供し試みていくことが必要になっている。

100周年を迎えるに際し、学園内では多くの事業等がすでに計画され実行に移されつつある。こうした挑戦的努力を正統的に裏付け、さらには、次なる100年を力強く独創的に歩む意欲を喚起するための指針を以下に示す。

I. 時代を超える平生精神

甲南学園が誕生した大正時代は、第一次世界大戦(1914年-1918年)をはさむ時代で、欧米では戦乱・戦禍、そしてそこからの整理復興のため、錯綜する国際関係のなか塗炭の苦しみを味わっていたのにたいし、日本では、これらの辛酸を対岸にみて、軽佻・安易に流れる世相のなか、教育においても堅苦しい詰め込み・画一主義で固められ、健全な自由の気風、自律にもとづく創造の活動が矯められていた。そのなかにあつて平生は真の人づくりの重要性を肌で感じ取りながら、現状に「満足せざる者」と語り、自らが信ずる人物教育を実践すべく甲南学園を設立した。袋小路に入り込んでいる感のある現代の教育と状況としては似たようなところだが、こうしたなか、平生は、折にふれ「真の教育というものは人格の修養と健康の増進を第一義とし、これにそなえるに各人が享けたる天賦の特性を啓発指導するにあり」と述べている。一方、2018年11月の中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」において、これからの高等教育が目指すべき方向性として「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」「学修者本位の教育」への転換の必要性が繰り返し述べられている。これを思うに、中央教育審議会の示す方向性に融合プラスするに「人格の修養」をもってする平生精神は時代を超えた理念であり、次なる100年も、平生精神は開学以来の使命として、その真価を発揮する時代としなければならない。

II. 今、21世紀に展開する平生精神

前述した中央教育審議会答申では、2040年に必要とされる人材に関して、「どのような人材が、社会を支え、社会をけん引することが望まれるのかについては、社会の変化を前提として考える必要がある」とする。そして、当面意識すべき社会の変化としては、①テクノロジーの発展、②異文化接点の増大、③国際的依存関係の深化、の三点をあげている。このような変貌を遂げた社会を支え、けん引できる人材とは、自ら主体的に考える習慣を身につけ、能動的な学習姿勢を持った人間に他ならない。平生はかつて「日本の教育は教えると云うだけで、ものを考えさせると云うことはしない」と述べ、日本人の模倣主義と詰め込み主義を批判し、思考力や独創力を養い引き出すこそが教育の真髄であると警鐘を鳴らしている。その後、平生は事あるごとに思考と独創の習慣を身につけるべく生徒を指導したとされ、2040年に必要とされる人材像をみても、正にこの平生の教育方針に拠るところがあるのではなからうか。

ところで、甲南学園は人物教育のクオリティリーダーを志向して久しいが、その淵源は、このように当時の教育全般に対し平生が有した健全な批判精神の発露にあった。そして、熟成された自問に対する平生の回答こそが「一般的な知識偏重を排し、人間を全体として全人格的に捉えるとともに、ひとり一人の個性に目をむけるべきである」という、個性尊重の精神に裏打ちされた「人

物教育」を実践する甲南学園の設立となったのである。次なる100年に歴史をつなげる使命をもつ我々は、今後もこの平生の理想を現実に展開すべく大学、高等学校、中学校のそれぞれで力を尽くしていかなければならない。

この点、現代社会は平生の生きた時代と比べるとはるかに複雑混沌とした時勢にある。また、旧制高等学校等における少数教育とは異なり、学園全体で10,000人になろうとする学生・生徒を擁している。創立当初とは環境が異なるものの、平生が理想とした教員と学生間あるいは学生同士間での知情意のface-to-face関係の構築こそが「人物教育」の要諦であることは、教職員のコンセンサスでもあり、モットーであり、常に変わらぬコンセンサスである。言葉を換えると、甲南学園にとって、これら知情意のface-to-face関係を育む場の提供こそが「人物教育」を育む豊かな土壌として認識され続けてきたのである。甲南大学がミディアムサイズの教育機関という“中庸の利点”を誇り、学園全体として、甲南中学校から高等学校さらには甲南大学へと“中継の利点”を重要とする所以はここにある。

我々はこうして培われ紡がれてきた現実の伝統を誇り、次なる100年においても時々社会的要請に応えながら、平生が志した「人物教育」を徹底的に志向し現実の場に展げて示しつづけていきたい。

III. 「人物教育」のパースペクティブ — 甲南教育101~200年 —

いま一度、平生のことばに耳を傾けたい。

「学校教育の本来の主旨は何なるやというに、小にしては一身一家一族のため、大にしては人類社会国家に貢献し得る人物を造るに在りと信ず。」

そうした人物とは「人格高尚身体強健にして加えて天稟の知能を啓発修養したる人」ともいい、また「奉公の念に満ちたるもの、私利私欲の念を去り他のために尽くす覚悟を要す。換言すれば縁の下の方持をなすこと」だとも言っている。正直、誠意、公平は言うまでもなく「熱血」とまで表現する「知力、胆力、勇氣」そして「忍耐」「共働互助」の精神を有した人物像を思い描いている。学校教育でこうした人物を造りあげるには「読書や説法」のみでは不足し学生・生徒の身体精神両様に修練する場、肉体も精神も苦難との対抗によってその抵抗力を増やしていく場、すなわち真にアクティブな活動の場を学校教育のなかに取り入れなければならない。スポーツ競技しかり、文化芸術のパフォーマンス、地域社会への貢献活動・フィールドワークもしかりであろう。

これらを踏まえ、そして近年の状況を考えるとこれからの「人物教育」にどのように挑戦する必要があるのだろうか。以下、三点ほどを掲げる。

- (1) グローバリズムの重要性が唱えられて久しいが、現在は約100年前の混沌とした国際関係に似た状況も露わになっている面もある。100年前とくらべ経済のネットワーク、世界市場の緊密度は大きく変化してきているが、平生夙三郎の言葉にある「世界に通用する人物たれ」そして「大局の打算を誤らざる」視点を涵養する教育の必要性がより一層高まってきている。
- (2) 大きな自然災害が日常茶飯事になっている。1938(昭和13)年阪神大水害で甲南高等学校も土石流の被害に見舞われた。その折平生が学生に与えた訓話のなかで、「神・大自然の力は無限大なる事」、そして「科学万能主義には限界がある」ことを述べ、理系・文系の学生ともに何れも世に出て仕事をするにあたって「歴史を重んじ、経験を尊び断じて専門主義のみによる

軽挙の事あつてはならぬ」と論じている。「常に備えよ」との言葉を平生が唱えるきっかけとなった災害だが、平生は一般的に天変地異は非合理であつて、正義に反する不合理と違つて、神の業として受け容れて対応せざるをえないと考えていた。これに倣えば、地球環境の変化について冷静に科学的知見として教育に取り入れるべきことは「常に備えよ」の一面だが、大自然の計り難い側面も心の一隅に常に留めること、この言葉に含意されていると知ること「人物」たる所以である。

- (3) AI等デジタル技術の高度化が目覚ましいが、超高度化したデジタル技術を、人と人との関係の中に上手く調和させて入れるにはどうすれば良いのか、という観点をしっかりもつて教育を展開しなければならない。100年前において技術の進歩はプラスのイメージのみで捉えられていたと考えられるが、デジタル情報技術は「人間の自由」のあり方に重大に関わつて来ており、独立(in-dependence)と相互依存(inter-dependence)のあり方、そしてindividualization(個性輝く)のあり方にも大きく影響している。自律した個人のなかの健全なるcommon senseをどう位置づけるかということにもかかわっている。

学園創立100周年にあつて個人個人の天賦の特性を引き出すという「人物教育」がいわゆる「人間として人間らしい人間をつくる」という単純明快なことながら、大きな環境の錯綜する変化のなかでこれをどのようなものとして実現していくか、平生精神を託されたすべての甲南人にとっての一大テーマである。

学校法人甲南学園 理事長

吉沢英成



甲南学園 創業者

平生 鈞三郎

実業家として東京海上保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献し、川崎造船所の再建にも携わる。その傍ら、ブラジル経済使節団団長を務め両国の親善友好にも貢献。また、患者本位の医療を行うべく、甲南病院を創設し、相互扶助の精神に賛同して灘購買組合(現生活協同組合コープこうべ)の結成に尽力するなど社会事業にも熱心に取り組んだ。さらに、政界では文部大臣を務め、義務教育の年限延長を提唱した。

このように多方面で精力的に活躍しつつ、教育事業者・教育者であることに自己の天職を見出した平生は「人の育成こそ最大の社会奉仕」と考え、甲南幼稚園、甲南小学校の設立に携わった後、甲南中学校を創立し、若者の教育に情熱を傾けた。



- 1866(慶応2)年 ● 美濃国加納藩士田中時言の三男として、現在の岐阜市加納の地に生まれる
父から武士道の精神を厳しく教え込まれた
- 1879(明治12)年 ● 岐阜中学校(現岐阜高等学校)に入学するも中退し上京
- 1881(明治14)年 ● 東京外国語学校(現東京外国語大学)入学
- 1886(明治19)年 ● 東京商業学校(のちの高等商業学校)入学
旧岸和田藩士平生忠辰の養子となる
- 1890(明治23)年 ● 高等商業学校(現一橋大学)卒業
高等商業学校付属主計学校助教諭拝命
英語と経済学を教える
- 1891(明治24)年 ● 朝鮮仁川海関幫辦拝命
- 1893(明治26)年 ● 兵庫県立神戸商業学校(現神戸商業高等学校)校長拝命
校紀を正し、廃校の危機から再建を果たす
- 1894(明治27)年 ● 請われて東京海上保険に入社
ロンドン支店監督、大阪・神戸両支店長を歴任し、日本を代表する損害保険会社に育てる
- 1909(明治42)年 ● 神戸の住吉村(現在の神戸市東灘区住吉周辺)に転居

- 1911(明治44)年 ● 甲南幼稚園の設立に携わる
- 1912(明治45)年 ● 甲南小学校の設立に携わる
私費による育英事業(後の拾芳会)を開始
- 1919(大正8)年 ● 甲南中学校を創立
- 1921(大正10)年 ● 灘購買組合(現コープこうべ)の創立に協力
- 1923(大正12)年 ● 七年制甲南高等学校を設立
- 1925(大正14)年 ● 社会奉仕に専念すべく
東京海上火災保険の専務取締役を辞任
- 1933(昭和8)年 ● 請われて川崎造船所(現川崎重工業)社長就任
会社の再建を果たす
- 1934(昭和9)年 ● 甲南病院を創設
- 1935(昭和10)年 ● 訪伯経済使節団団長としてブラジルを訪問
- 1936(昭和11)年 ● 文部大臣親任(広田弘毅内閣)
- 1940(昭和15)年 ● 大日本産業報国会会長就任
- 1942(昭和17)年 ● 勲一等旭日大綬章受章
- 1943(昭和18)年 ● 枢密顧問官親任
- 1945(昭和20)年 ● 東京都目黒区で永眠

■ 育英事業「拾芳会」

平生は、有能でありながら経済的に困窮し進学できない生徒に学資を与える育英事業を私財を投じて立ち上げた。給付にあたっては、一人一人に長文の手紙を書き、将来国家や社会、人々のために働く人間になることを誓約させた。また、給費した学生を自宅や寮に住ませ、家族同様に接して人物の育成を図った。この育英事業は、「香る花のつぼみを拾い上げる」の意味から「拾芳(しゅうほう)会」と名付けられ、学資を授かった者は約160名におよんだ。



第1回拾芳大会
1918(大正7)年

これ以降、毎年8月に平生邸で開催することが恒例となった拾芳大会。拾芳会の会員すべてが集うこの日を平生は「実ニ愉快ナル団樂」と感慨をもって迎えた。

■ I am from the Konan

「この青年は私の学校をでておるから、人格は最も信用していただきたい。少なくとも私同様ご信用願いたい」。これは平生が卒業生の結婚式のはなむけに贈った言葉。伊藤忠兵衛(元甲南学園理事長)は、平生の言葉の中で最も印象深いものであると記している。また、平生は旧制甲南高等学校第二回卒業生送別式において「I am from the Konan をもって誇りとする」と述べて、その門出を祝した。



甲南大学 平生像 1967(昭和42)年

■ ^{ただし} 正志く 強く 朗らかに

平生が人生のモットーとしていた言葉。扁額は日伯親善の貢献に対してブラジル政府から勲章を授けられた際に平生が揮毫したもので、「正志く」と当て字が用いられている。平生はスポーツがこのモットーの本質を身につけるのに好適であるとして、いたるところでスポーツを奨励した。特にラグビーは fair play、honesty、courage、cooperationの特性を涵養するのに最も適している、とこよよく愛した。



平生鈞三郎直筆扁額 1936(昭和11)年

■ 他人ノタメニ尽力セン

平生が甲南中学校の創立と同様に心魂を傾けた社会事業が甲南病院の創設である。当時としては画期的な完全看護・完全給食・患者互助(私的な健康保険制度)を取り入れた「悩める病人のための病院」は高く評価された。構想から開院まで9年を要する難事業をやり遂げた平生は日記に「自己の理想を実現すべき学校と病院を建設せんとするが如き事は…実に望外」と記した。



創設当時の甲南病院 1934(昭和9)年

甲南学園の 100年

人格の修養と

健康の増進を重んじ、個性を尊重して

各人の天賦の特性を伸張させる

教育事業者・教育者であることに天職を見出した平生は、この教育理念を掲げて、1919(大正8)年、甲南中学校を創立します。

画一的な詰め込み教育では独創的な人物は育たず、生徒それぞれの異なる天賦の才能を伸ばすことこそが教育の使命であると考えていた平生の人物教育の理念は、甲南100年の礎をなし、今に受け継がれています。

1919

甲南中学校の創立

1919(大正8)年4月21日、55名の生徒と7名の教員による甲南中学校が産声をあげました。設立の要旨には「個性ヲ尊重シ且之ニ順応セル教育ヲ施シ」と謳われ、平生もこの日の日記に「人物教育を率先」と明確に記しています。1923(大正12)年には、甲南中学校は平生の念願であった7年制甲南高等学校へと発展します。そこでは、自由な校風のもと、画一的な教育を排した少人数教育により生徒の個性が育まれました。



1919(大正8)年4月21日
甲南中学校第1回入学式

食堂もまた教育の場であると考えた平生が1927(昭和2)年に私財を投じて設けた大食堂。全校生徒と教職員とが一堂に会して、和やかに同じ昼食をとりました。



1951

甲南大学を開学

戦後の学制改革において、甲南学園は新制大学の開設を決定し、1951(昭和26)年に文理学部を擁する甲南大学を開学します。初代学長には、かつて甲南高等学校の教授を務めた著名な物理学者、荒勝文策が就きました。荒勝学長は4月21日に行われた第1回入学宣誓式において、甲南大学の特色を大要次のように述べています。「学生は教授の優れた人格に親しく接することができ、また、学部間に壁はなく、学術の全分野を自由に学ぶことができる。」

1951(昭和26)年
大学最初の門標



1942(昭和17)年
旧制1号館屋上

1963

甲南高等学校・中学校の移転

大学開学後しばらくは、大学と高等学校・中学校はともに岡本の地にあり、大学生と中学生が同じキャンパスを歩き来していました。その後、学生・生徒数の増加に伴う敷地と校舎の不足を解消するため、大学と高等学校・中学校の分離移転を決定。1963(昭和38)年、高等学校・中学校は芦屋市朝日ヶ丘町(現山手町)に移転しました。

1952(昭和27)年
岡本キャンパスに通う
高等学校・中学校の
生徒たち



1963(昭和38)年
芦屋に移転した
高等学校・中学校

1918(大正7)年12月	財団法人甲南学園私立甲南中学校の設立許可	1950(昭和25)年12月	財団法人甲南学園を学校法人甲南学園に組織変更
1919(大正8)年4月	甲南中学校を開設	1951(昭和26)年4月	甲南大学を開学(文理学部を設置(初代学長 荒勝文策))
1923(大正12)年4月	七年制甲南高等学校を開設	1952(昭和27)年4月	経済学部経済学科を増設
1924(大正13)年3月	中学校第一回卒業式を挙行(卒業生16名)	1953(昭和28)年6月	学園歌を制定(寿岳文章作詞・信時潔作曲)
1926(大正15)年4月	高等学校第一回卒業式を挙行(卒業生43名)	1955(昭和30)年3月	大学第一回卒業式を挙行(卒業生150名)
1938(昭和13)年4月	開校20周年記念式典を挙行	1957(昭和32)年4月	文理学部を文理学部と理学部に分離し、文学部に国文、英文、社会の3学科を、理学部に物理、化、生物の3学科を設置
1945(昭和20)年11月	阪神大水害、校舎の一部と校庭が土砂に埋め尽くされる	1959(昭和34)年4月	理学部経営理学科を増設
1947(昭和22)年4月	学園創立者平生三郎が東京都目黒区で水眠	1960(昭和35)年4月	法学部法学科、経営学部経営学科を増設
1948(昭和23)年4月	学園創立者平生三郎が東京都目黒区で水眠	1962(昭和37)年4月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1949(昭和24)年5月	学園創立30周年記念式典を挙行	1963(昭和38)年4月	1963(昭和38)年4月
1963(昭和38)年4月	甲南・イリノイセンターを開設	1964(昭和39)年4月	理学部応用数学科を増設
1969(昭和44)年4月	電子計算センターを開設	1965(昭和40)年4月	大学院人文科学研究科国文学・応用社会学専攻、社会科学研究科経営学専攻を増設
1970(昭和45)年4月	甲南学園50周年記念式典を挙行	1966(昭和41)年3月	大学院社会科学研究科経済学、法学、経営学専攻を開設
1971(昭和46)年4月	甲南学園博士第一号の学位記授与式を挙行	1969(昭和44)年4月	理学部社会科学研究科国文学・英文学・応用社会学専攻、自然科学研究科物理学・化学・生物学専攻を開設
1974(昭和49)年3月	甲南学園平生記念館が竣工(神戸市東灘区住吉町の平生邸跡地)	1970(昭和45)年4月	高等学校・中学校が芦屋市朝日ヶ丘町(現山手町)に移転
1976(昭和51)年3月	電子計算センターを開設	1971(昭和46)年4月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1978(昭和53)年6月	甲南・イリノイセンターを開設	1972(昭和47)年4月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1981(昭和56)年5月	甲南学園博士第一号の学位記授与式を挙行	1973(昭和48)年4月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1982(昭和57)年10月	甲南学園東京事務所(東京都港区)を開設	1974(昭和49)年3月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1983(昭和58)年4月	甲南学園創立60周年記念式典を挙行	1976(昭和51)年3月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1984(昭和59)年4月	甲南学園創立60周年記念式典を挙行	1978(昭和53)年6月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1985(昭和60)年4月	甲南学園創立60周年記念式典を挙行	1979(昭和54)年4月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1986(昭和61)年4月	甲南学園創立60周年記念式典を挙行	1981(昭和56)年5月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設
1987(昭和62)年4月	甲南学園創立60周年記念式典を挙行	1982(昭和57)年10月	理学部応用物理学科・応用化学科を増設

1969

学園創立50周年記念式典を挙行

ときの理事長 伊藤忠兵衛は記念式典の式辞で「画一的ナ教育ヲサケ、個々ノ人間ノ才能ヲノバシウル教育ヲツツケタイ」という平生の人物教育に対する思いを宣明し、「キタルベキ 新世紀ヘナガク ツヨクモチツツケタイ」と述べました。平生とともに甲南中学校の創立に情熱を注ぎ、平生に身近に接してきた伊藤の式辞は、甲南の人物教育を最もよく現した言葉として、語り継がれています。



1969(昭和44)年
学園創立50周年
記念式典

1978(昭和53)年
高等学校・中学校講堂竣工
講堂の緞帳は当時バリエーションに活躍していた画家菅井汲の作品「FESTIVAL DE KONAN」。
甲南学園のロゴマークも菅井の手によるものです。



1991

トゥレーヌ甲南学園の設立

フランスのサン・シール・シュール・ロワール市に、男女共学・全寮制の海外校トゥレーヌ甲南学園を開校しました。「コアピタシオン(地元との共生)」をコンセプトに、ホームステイ、現地教育機関での学び、現地留学など海外校ならではの特色ある教育を展開し、世界に通用する人物の育成に取り組んできました。

[2013(平成25)年閉校、卒業生総数637名]



1991(平成3)年
トゥレーヌ甲南学園

トゥレーヌ甲南学園を訪れた
シラク仏大統領とともに



1995

阪神・淡路大震災からの復興

1995(平成7)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災により、学生・生徒・同窓生ら37名が犠牲となりました。また、大学、高等学校・中学校のキャンパスは校舎が倒壊するなどの甚大な被害を受けましたが、地域の避難者およそ1,200名を受け入れたほか、多くの学生らがボランティアとして地域の復旧・復興に貢献しました。学園も多方面からの厚い支援を受け、2年という短期間でキャンパスの復興を遂げました。



1995(平成7)年
大学正門前

1号館の取り壊し



2009

西宮キャンパス、 ポートアイランドキャンパスの開設

学園創立90周年事業の一環として、西宮市とポートアイランド(神戸市中央区)に新しいキャンパスを開設。マネジメント創造学部(CUBE)、フロンティアサイエンス学部・研究科(FIRST)を設置しました。経済・経営を中心に英語を重視した学びを深めるCUBE、学生一人ひとりに専用の研究スペースが与えられるFIRSTで、まったく新しい教育スタイルへの挑戦がスタートしました。



2009(平成21)年
西宮キャンパス(CUBE)

2009(平成21)年
ポートアイランドキャンパス
(FIRST)



1984(昭和59)年6月	1990(平成2)年4月	1991(平成3)年4月	1994(平成6)年4月	1995(平成7)年1月	1996(平成8)年4月	1997(平成9)年3月	1998(平成10)年2月	1999(平成11)年4月	2001(平成13)年4月	2002(平成14)年4月	2003(平成15)年11月	2004(平成16)年4月	2005(平成17)年4月	2006(平成18)年4月	2008(平成20)年4月	2009(平成21)年4月	2010(平成22)年4月	2011(平成23)年4月	2012(平成24)年4月	2013(平成25)年4月	2014(平成26)年4月	2015(平成27)年4月	2016(平成28)年5月	2017(平成29)年9月	
総合研究所を開設	大学院自然科学研究科生命・機能科学専攻を増設	国際交流センターを開設	大学院自然科学研究科情報システム科学専攻を増設	阪神・淡路大震災 学生・生徒ら37名が犠牲、校舎の大半が倒壊 学生・生徒ら37名が犠牲、校舎の大半が倒壊 法学部経営法学科を増設 国際言語文化センターを開設	大学院自然科学研究科情報システム科学専攻を増設	フランスのトゥレーヌ甲南学園を開校	国際交流センターを開設	1995(平成7)年1月 阪神・淡路大震災 学生・生徒ら37名が犠牲、校舎の大半が倒壊	1999(平成11)年4月 ハイテク・リサーチ・センターを開設 高等学校に文I・文IIコースを設置 学園創立80周年記念式典を挙行	2001(平成13)年4月 甲南大学平生記念セミナーハウスが竣工 カウンセリングセンターを開設	2002(平成14)年4月 経済学部・経営学部EBA総合コースを開設	2003(平成15)年11月 先端生命工学研究所(FIBER)を開設 甲南大学ネットワークキャンパス東京を開設 人間科学研究所を開設	2004(平成16)年4月 経済学部・経営学部EBA総合コースを開設	2005(平成17)年4月 理学部歴史文化学科を増設 理学部を理工学部に変更 物理学科・生物学科・機能分子化学科 情報システム工学科の4学科に改編 大学50周年記念式典を挙行	2006(平成18)年4月 大学院(専門職)ビジネス研究科会計専攻を増設 企業法務研究所を開設 教職教育センターを開設	2008(平成20)年4月 大学院自然科学研究科情報システム科学専攻を 情報システム工学専攻に名称変更 ビジネス・イノベーション研究所を開設	2009(平成21)年4月 大学院(専門職)法学研究科法務専攻を設置 スポーツ・健康科学研究センターを開設 フロンティア研究推進機構を開設	2010(平成22)年4月 知能情報学部知能情報学科を増設 理工学部を物理学科・生物学科・機能分子化学科の3学科に改編 大学院(専門職)ビジネス研究科会計専攻を増設 企業法務研究所を開設	2011(平成23)年4月 西宮キャンパス、ポートアイランドキャンパスを新設 マネジメント創造学部マネジメント創造学部(CUBE)、 フロンティアサイエンス学部生命化学科(FIRST)、 大学院フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻 (FIRST)を増設 学園創立90周年記念式典を挙行	2012(平成24)年4月 知能情報学部知能情報学科を増設	2013(平成25)年4月 大学院自然科学研究科情報システム工学専攻を 社会科学部研究科会計専門職専攻に名称変更 大学院自然科学研究科情報システム工学専攻を 知能情報学専攻に名称変更	2014(平成26)年4月 岡山キャンパス防災センターが竣工 大学開学60周年記念式典を挙行	2015(平成27)年4月 高等学校・中学校甲友会館(Le Casque)が竣工 高等学校・中学校体育館Eアリーナが竣工	2016(平成28)年5月 白川台キャンパスを開設	2017(平成29)年9月 KONAN INFINITY COMMONS (iCOMMONS)が竣工

学園創立100周年記念事業

2019年の甲南学園創立100周年に向けて

2015年に「Respectable KONAN for the World」の理念を掲げ、

さまざまな記念事業を内容とした事業計画を策定し、その事業の推進に取り組んできました。



Agora (大階段)



Hirao Dining Hall (学生食堂)



KONAN INFINITY COMMONS (iCommons) 建設



2017年9月、岡本キャンパスの旧学生会館跡地に

KONAN INFINITY COMMONS (愛称:iCommons/アイコモンズ) が竣工しました。

吹き抜けの大空間を中心に、課外活動のための部室やホール、学生食堂・カフェをはじめ、シーンによってさまざまな用途に利用できる多目的ホールやスタジオ、さらにはブックカフェ・アトリエ・キッチン・フィットネスルームといったユニークな施設が設けられています。オープンな施設の特徴を生かし、これまでに学生のゼミ発表や課外活動、教員の研究発表のほか、高大連携イベントや各種同窓会、キッズフェスティバルをはじめとする地域イベント、さらには音楽会なども開催され、大きな賑わいを見せています。

iCommonsは、学生同士、教職員、卒業生、地域の方々など、ここに集う人々が縦横無尽につながり、相互に触発され、新たな創造を生み出す空間。人と人、コミュニティとコミュニティをつなぐキャンパスの「結節点」とし機能するiCommonsは、甲南の人物教育に新たな広がりや深みを加え、学生に大きなインパクトを与えています。



TSUTAYA BOOKSTORE
KONAN iCommons
(ブックカフェ)



CAFFÉ & BAR
PRONTO

甲南高等学校・中学校キャンパス再開発

徳・体・知のバランスのとれた人物の育成を実践する場として
 健やかな身体と豊かな人間性を養うスポーツ屋内練習場などが竣工しました。



甲友会館

学園創立90～100周年記念事業として竣工した甲友会館(Le Casque)は食堂、文化部室、宿泊室、柔道場、剣道場など複合施設からなり、生徒が自ら思考力・独創力を伸ばす学びの場。個性を尊重し、自主自立の精神を養う平生鈇三郎の理想とする教育の実現につなげています。

スポーツ屋内練習場

ゴルフ練習場と多目的に使える野球練習場で構成される屋内練習場は、体育の授業のほかに、クラブ活動にも利用されています。学校の美しい景観を守るために建物の高さを10メートル以下に抑えながら、2階に最大限の活動エリアと天井高を確保。木々を通して六甲山のさわやかな風が吹き抜け、生徒が体力づくりや競技力の向上に集中できる理想的な環境です。



甲南大学 白川台キャンパス開設

神戸市須磨区東白川台に生まれた「コスモスキャンパス」。
 教員と学生、学生同士が非日常の環境で交流を深め、地域ともつながります。

白川台セミナーハウス「II(アイル)」とグラウンド、野外活動施設で構成。セミナーハウスは講義室のほか、体育館や140名収容の宿泊施設を備え、ゼミ合宿や宿泊を伴う多様な活動に対応が可能です。また、本学教員が公開講座などを開催し、地域の方々と甲南大学との連携を強化する取り組みも積極的に行っています。



100周年記念事業募金

2015年10月の募金開始から現在に至るまで、卒業生や保護者の方々をはじめ、同窓会、法人・団体の皆さまから多くのご芳志を賜りました。募金対象事業も着実に進行し、その成果を生んでいます。

(募金期間：～2020年9月30日)

100周年記念 奨学金制度創設

100周年記念“わがくるま 星につなぐ”甲南の星奨学金制度を創設し、大志を抱く優秀な学生・生徒に奨学金を給付します。

“Hitch your wagon to a star”はアメリカの思想家エマソンの言葉。甲南学園歌の一節に使われている。

学園史資料展示室 リニューアル

平生鈇三郎の生涯の功績と甲南学園100年のあゆみを岡本キャンパス1号館1階に展示しています。学園のルーツである旧制甲南高等学校を重要なテーマとして位置づけ、初公開となる貴重な資料もみることができます。



平生鈇三郎日記 出版事業完成

学園創立90周年記念事業としてスタートした「平生鈇三郎日記」全18巻の翻刻が、2019年2月に完成。平生は亡くなるひと月前までの32年にわたり、日記をほぼ毎日書き綴りました。そこでは、政治・経済・教育・社会など、およそ人間に関わる事象について真正面に向き合い、格闘していた平生の見識が豊富に遺憾なく記されています。



変革 甲南大学

次の100年に向け、歩み始めています

「人物教育の甲南」と評価される大学として

その使命を果たし続けていくために、甲南教育の新たな100年は、すでに始動しています。

人物教育率先の理念を

より高いレベルで実践

甲南学園100年の歴史の中で、甲南大学は、創立者 平生夙三郎の教育理念「個性を尊重して、各人の特性を啓発する人物教育の率先」を実践してきました。現在は新たな世紀へ向け「甲南新世紀ビジョン」を制定し、「クオリティ・リーダー」としての大学づくりに邁進しています。

本学は8学部14学科を備えながらも、1学年約2,000名という“ミディアムサイズの総合大学”です。キャンパス内では顔がわかる少人数教育を実現し、初年次に全学部が融合して学ぶ『共通基礎演習』を設け、多彩な意見に触れつつ、自律的に思考し行動する力も養成します。またボランティアやスポーツなど、従来の講義では測れない力を評価する本学独自の「KONAN サータィファイケイト」の充実や、瀬戸内・関西湾岸都市とのネットワークを構築して各地域の課題解決に取り組む「地域連携教育」などにより、課題解決力や突破力を養う教育にも力を注いでいます。



甲南大学 学長
長坂 悦敬

甲南新世紀に向かう

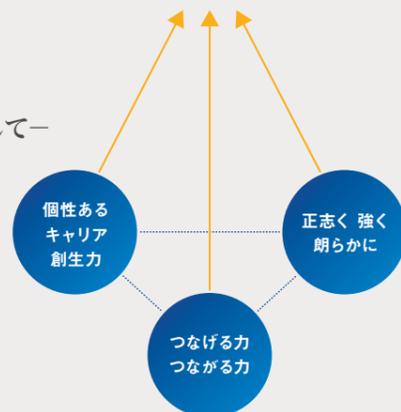
“甲南らしさ”のワンワード

甲南教育の新たな100年に向け、甲南大学の魅力をわかりやすく一言で表現するために、KONAN ワンワード・プロジェクトを実施し、学生・教職員の投票によって「KONAN INFINITY」を選定。これは、さまざまな出会いや発見によって日々成長し、「無限大」の未来が広がっていくキャンパスライフをイメージしたものです。さらに、ワンワードに込めた思いを発信する象徴として、躍動的なコミュニケーションマークを設定しました。



KONAN INFINITY

“見つかる、きみのなかの無限大”



KONAN U. WAY

—世界に通じる人物をめざして—

「ヨキカラダ ヨキ考エ 少シデモ 世ノ中ニ ツクシウル 人間ニ ソダツテ モライタイ」。そのために「画一的ナ 教育ヲ サケ 個々ノ 人間ノ 才能ヲ ノバシウル」教育。これこそ平生ほか創立にかかわった伊藤忠兵衛など錚々たる人物から今に伝わる教育理念の根本。この言葉を「KONAN U. WAY —世界に通じる人物をめざして—」として3つの指針にまとめました。

個性あるキャリア 創生力を涵養する

他者を敬い、礼儀・マナーを重んじ、健全な常識を培い、人格を形成するとともに、一人ひとりの天賦の特性を活かし希望を創り生みだし、その目標にむけ日々努力する。

つなげる力・ つながる力を育む

共に学び、成長する場を大事にし、リーダーシップ(人をつなげる力)・共働互助(人とつなげる力)を培う。

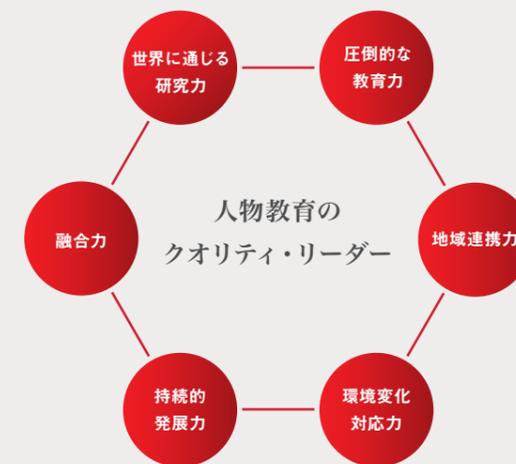
正志く 強く 朗らかに

周囲環境のどのような変化にも志を貫き大局の打算を誤らず、的確柔軟に対応していくよう心掛ける。

甲南新世紀ビジョン

「人物教育のクオリティ・リーダー」と 評価される大学をめざして

人物教育率先の理念をより高いレベルで実践し、世界に通じる研究力を教育や地域連携に積極的に生かし、新たな時代においても持続的に発展できる大学となるために、以下3つの「甲南新世紀ビジョン」を掲げています。この時代・社会から寄せられる期待に応えるために、ミディアムサイズの総合大学のメリットを最大限に生かし、さらなる教育の質の高度化をめざします。



01 圧倒的な教育力により、人物教育の クオリティ・リーダーと呼ばれる大学になる

「融合力を身につけ、個性を力にできる才幹」を育てる大学であることを明確に示し、「人物教育のクオリティ・リーダー」というポジションを確固たるものにする。

02 融合力を発揮し、様々な環境変化に対応できる力、 持続的に発展できる力を備えた大学になる

甲南の融合力を発揮できる組織能力を確立し、教育基盤整備に対して戦略的投資が継続される体制を構築することで、今後の環境変化に対応しつつ持続的発展が可能な大学となる。

03 世界に通じる特色ある研究力が教育に浸み出し、 地域と連携して発展していることが社会に 評価される大学になる

特色ある研究成果の還元、人物教育、社会貢献を通じて「神戸には甲南大学」という評価を得て、地域とつながり、地域とともに世界に向けて発信する成果が評価される大学になる。



甲南大学の研究力

Nature Index2018 Japan
日本 第3位

2018年3月発行の「Nature」特別企画冊子「Nature Index 2018 Japan」にて、高品質な科学論文を効率的に発表している大学として、甲南大学が学習院大学、東京大学に続く国内3位にランクインしました。



Konan University
nature
INDEX 2018
JAPAN

HP:natureindex.com

“顔がわかる”少人数教育

150人以下のクラス数が
全体の94%を占める

隅々まで行き届く質の高い教育を実現するために、大規模授業の少人数化を推進しています。現在では、学生数150名以下で実施する講義が、全体の9割以上を占めています。



学生の挑戦を可視化する
KONAN サーティフィケート

試験の成績やGPA(学業成績評価の平均ポイント)で表される成績評価だけでは測れない学生の力を評価認定する「KONAN サーティフィケート」という独自の評価認定制度を設け、学生の個性を生かした挑戦を促し、成長の可視化を図っています。

グローバル サーティフィケート

スポーツ サーティフィケート

ライブラリ サーティフィケート

ボランティア サーティフィケート

ラーニングサポート サーティフィケート



融合型グローバル教育

グローバルゾーン
Porte(ポルト)開設

専門能力・国際力・行動力を融合したグローバル教育を推進する異文化交流スペースのグローバルゾーン「Porte(ポルト)」。学生や留学生、教員が自由に集い、異文化や言語を身近に感じられる空間です。



段階別留学制度
「HOP・STEP・JUMPプログラム」

「世界に通用する紳士・淑女たれ」という建学の理念のもと、グローバル社会で、一人ひとりが個性を生かして輝けるよう、無理なく、いつからでも国際交流にチャレンジできる「ホップ・ステップ・ジャンプ」という段階別プログラムを設置しています。



革新的共通教育

他者と協調する力を養う
「共通基礎演習」

全学部1年次生が、少人数のグループで行うプロジェクト型学習。主体的に学ぶ楽しさとその先にある目標を自ら発見することが主な目的。共に考え、共に解決するプロセスが仲間への信頼や協調性を自然に育んでいきます。



目標と興味に応じて選択する
「キャリア創生共通科目」

大学から社会への橋渡しを果たす「キャリア創生共通科目」。学部で身につけた専門知識を自らのキャリア形成に生かせるように、多様な選択肢から他分野を学べます。会計などの実務知識やITリテラシー、英語で学ぶビジネスなど、多様な実践的能力を磨く科目を用意しています。



地域連携・ボランティア教育

地域とつながる拠点
「地域連携センター」

地域と連携した活動を通じて学生の人間性を育むという教育的な使命と、知的プラットフォームの役割を果たし地域の活性化やコミュニティの発展に貢献するという社会的な使命。これらの使命を担う大学と地域をつなぐ「地域連携センター」は、学生が地域で学ぶ機会を提供し、自ら率先して社会に貢献できる人材育成に取り組んでいます。



包括連携協定を結ぶ
久元喜造 神戸市長(左)と
長坂学長

甲南大学の教育力

さまざまな大学ランキングにおいて
高い評価を受けています。

「世界大学ランキング」で権威のある英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)がベネッセグループの協力のもと発表した「THE世界大学ランキング 日本版2018」において、「教育成果」分野で国内の大学で26位、私立大学では7位にランクインしました。また、日経キャリアマガジン特別編集「価値ある大学2019年版 就職力ランキング」では、甲南大学生の人物力が高く評価されました。



[教育成果] 全国 **26**位
私立大学では **7**位

■ 日経就職力ランキング
[対人力] 分野 全国 **3**位
私立大学では **1**位

日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学2019年版

進化 甲南高等学校・中学校

建学の理念を継承し、 教育ビジョンがさらに進化しています

中学校誕生から100年、 原点としての使命を胸に

1919年、甲南中学校が創立され、現在の甲南学園へと続く理想の教育をめざす飽くなき挑戦が始まりました。そのことに思いを馳せると、甲南高等学校・中学校が礎として担ってきた役割と果たすべき責任が、おのずと明らかになります。

振り返れば、いつの時代も私たちは「徳・体・知の調和のとれた、『世界に通用する紳士』を育成する」という建学理念を柱に進化を続けてきました。それは、理念を単なる謳い文句にせず、それぞれの時代において、実現することが使命だと一貫して考えてきたからに、ほかなりません。本校においても、100周年を迎える契機に「学びに集い正志く強く共に成長する」と、新しい教育ビジョンを策定しました。創立者・平生鈺三郎先生の理想とされた教育に、新たなビジョンを付け加え実行していくことで、次代を先駆ける「人物教育」を、より一層推進してまいります。



甲南高等学校・中学校 校長
山内 守明

生徒を中心に、教師、卒業生、保護者も ともに学び合い成長する

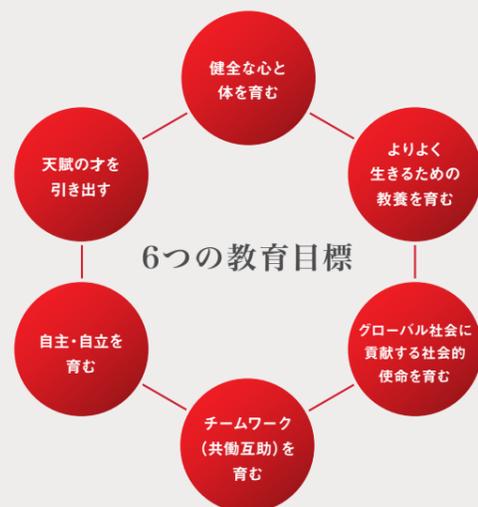
教育は、生徒が教師から学ぶだけの一方通行な営みではありません。生徒のひたむきな努力に教師が触発される場面も数多く存在します。甲南は、このように学び合う関係を生徒・教師だけでなく卒業生、保護者まで広げてとらえ、それぞれが生きてきた出会いを通じて成長することをビジョンに掲げました。自学自修プログラムや文化祭、OBワークショップ、ソフィア講演会、育友会対象の講演会など、多岐にわたるプログラムが甲南に集う人々の成長を自然に促し、母校への誇りを育みます。

教育ビジョン

学びに集い 正志く強く 共に成長する

「徳育」を教育の羅針盤と定め、 新時代の甲南らしさを追求する

教育目標の「徳・体・知の調和のとれた、人間性豊かで自立心を備えた『世界に通用する紳士』を育成する」は、創立者・平生鈺三郎が掲げた建学の理念を端的に表す言葉であり、グローバル時代の到来を予言する先見性と普遍性を備えています。その理念を羅針盤に6つの教育目標「健全な心と体を育む」「天賦の才を引き出す」「よりよく生きるための教養を育む」「自主・自立を育む」「チームワーク(共働互助)を育む」「グローバル社会に貢献する社会的使命を育む」を策定。それぞれの目標を達成する具体的な教育施策を着々と進めていきます。



個性を伸張させる 自学自修・探究学習の充実

生徒一人ひとりが「伝統文化」や「地域活性化」などテーマを決め、1年間かけてじっくりと探究し、その成果をレポートにまとめて発表する自学自修プログラム。自分で興味のある対象を見つけ、深く掘り下げながら夢中に取り組むことによって将来に役立つ自発的な「学びの姿勢」が身につきます。



社会で活躍する卒業生から キャリアについて学ぶ

中学3年生を対象に、さまざまな分野で活躍する卒業生を講師に招いて「OBワークショップ」を開催しています。先輩たちのキャリアを築く歩みや仕事のやりがい、さらに中高時代の学びや思い出など実践に基づいた話に触れ、将来に向けての意識が高まります。



OBを囲むワークショップ

OB企業を訪問

日本をリードするキーパーソンから 学ぶ「ソフィア講演会」

年に2回の「ソフィア講演会」では、各界を代表する著名人に「いかに生きるか」を学びます。貴重な経験を一過性にしないため事前・事後学習を実施。生徒たちは講演者へのメッセージ形式でレポートを書き、理解を深めます。卒業生、保護者にも開かれた場です。

これまでの主な講演者

- ミズノ株式会社相談役会長 水野正人氏
- 心臓外科医 須磨久善氏
- 宇宙航空研究開発機構 JAXA 川口淳一郎氏



ICT・アクティブラーニングに資する 校内Wi-Fi化ほか施設設備の拡充

100周年記念事業の一環として中高キャンパスの再開発に取り組み、体育館、甲友会館、スポーツ屋内練習場の整備を完了しました。さらに生徒と教師がインタラクティブにやりとりしながら学ぶICT教育の推進と課題発見力・能動性を育むアクティブラーニングの充実を図るため全館Wi-Fi化を実現。6年間の学びをすべてクラウド上に記録するeポートフォリオも作成し、生徒一人ひとりの目標達成を支援します。



世界を見据えた2コース制

フロントランナー・コースは、「サイエンス」と「グローバル」に特化し、国際社会の第一線で活躍する人材を育成。アドバンスト・コースは、「グローバル」と「リベラル・アーツ(教養)」をキーワードに多様な進路を保証します。両コースとも見つけているのは、大学卒業後の先にある未来。一人ひとりを「なりたいたいキャリア」へ導きます。

フロントランナー・コース

甲南大学
国公立大学
医歯薬理工系・文系へ進学

アドバンスト・コース

甲南大学
海外大学
国公立大学
私立大学へ進学

Styles of KONAN

甲南学園 人の100年

正志く
強く
朗らかに

